

# 円融寺釈迦堂

重要文化財/目黒区

山門









参道





円融寺ホームページより

仁王門



# 円融寺仁王門

区指定文化財（昭和53年3月22日指定）

碑文谷1-22-22

仁王門は三間一戸、八脚、入母屋造、茅葺（現在は銅板葺）で、用材は主に檼と檜を使い、和様に唐様をとり入れた建築様式で、細部の虹梁、幕股、懸魚などにも彫刻的装飾が多く施されています。

中央通路両脇に安置されている木造金剛力士像（都指定文化財）は、永禄2年（1559）鎌倉扇谷大藏法眼の作といわれ、簡素な中に力強さを秘めており、「黒仁王さん」または「碑文谷の仁王さん」として親しまれ、江戸時代末期に多くの人々の信仰を集めました。

仁王門は木造金剛力士像の製作とともに建築されたものと推定され、部分的には中世的特質も残していますが、しかし寛文期（1661-1673）から元禄期（1688-1704）にかけての様式的特徴が見られることから、現在の仁王門は近世になって大改修が行われたものと考えられます。

平成21年3月  
目黒区教育委員会



境内側から見る





釈迦堂(本堂)



# 円融寺

碑文谷 1 - 2 2 - 2 2

寺伝によれば円融寺は、仁寿3年（853）に慈覚大師によってこの地に開かれた天台宗法服寺がそのはじまりです。

弘安6年（1283）日蓮上人の高弟日源上人により天台宗から日蓮宗に改宗しました。この時に寺号も妙光山法華寺と改めて、以後約400年の間にわたり栄えた名刹でした。しかし、いわゆる不受不施の教義を強く主張したため江戸幕府の弾圧を受けることとなり、元禄11年（1698）に元の天台宗にもどされました。そして天保5年（1834）に、山号寺号を経王山円融寺へ改め今日に至っています。

正面に立つ優美な姿の「釈迦堂」（国指定重要文化財）は室町時代初期に建てられたもので、東京都23区内では最も古い木造建築です。

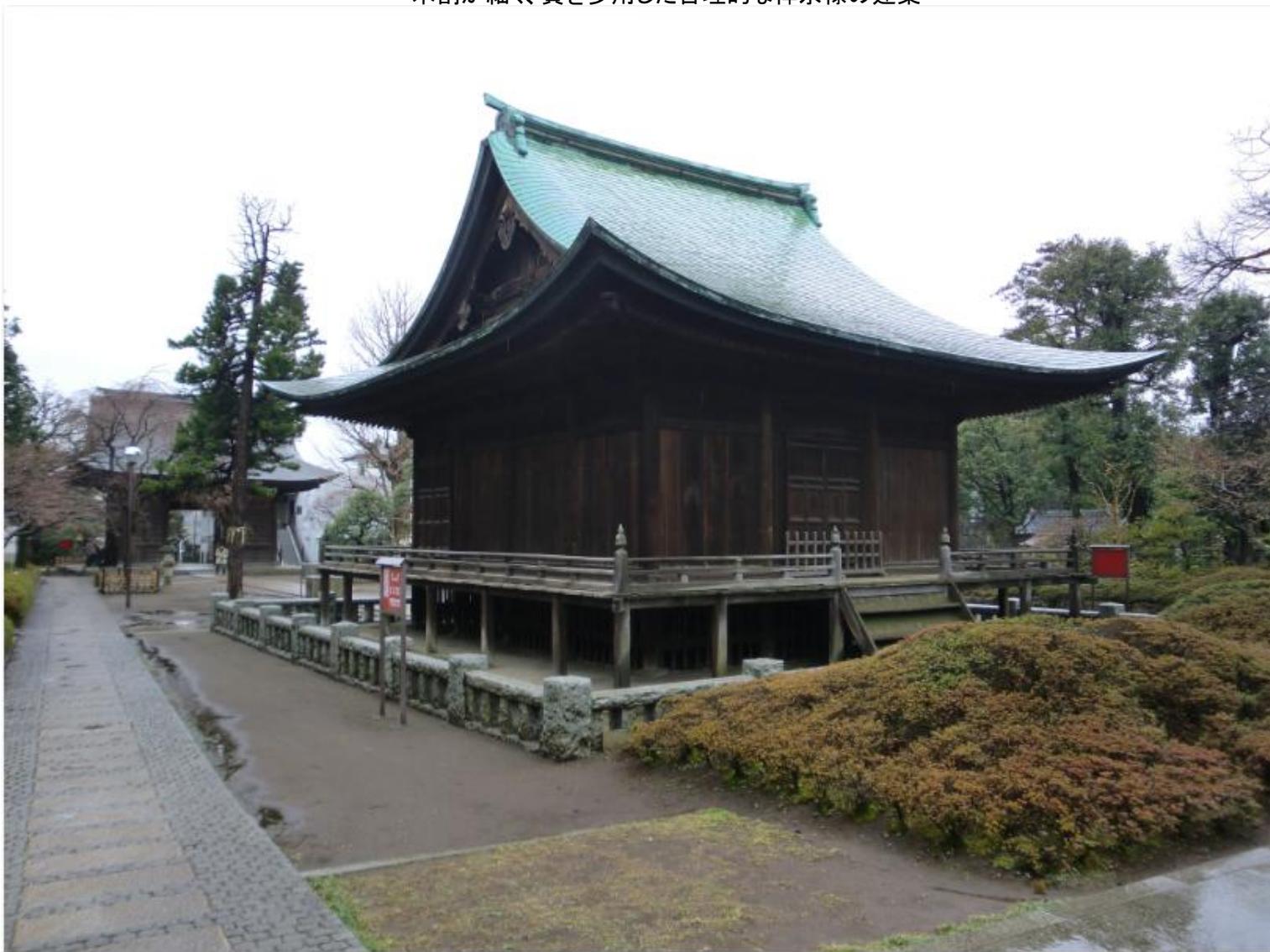
境内には他に、寛永20年（1643）に鋳造された「梵鐘」（国重要美術品）、仁王門（区指定文化財）に安置されている木造金剛力士立像（都指定文化財）や、日源上人の事績が刻まれている「日源上人五重石塔」（区指定文化財）などがあり、また本堂には中世宗教史研究上貴重な歴史資料である「円融寺板碑」（区指定文化財）があります。

平成21年3月  
目黒区教育委員会

東京23区内で最も古い木造建築



木割が細く、貫を多用した合理的な禅宗様の建築



正福寺地蔵堂と同じく屋根の反りが非常に大きい







三花懸魚(みつばなげぎょ)



妻飾りは虹梁大瓶束(禪宗様)





扉は桟唐戸、組物は出組の詰組



垂木は二軒繁垂木の平行垂木(和様)



天台宗仏堂の特徴といわれる縁と逆蓮頭の擬宝珠の高欄





鐘楼と梵鐘







円融碑





## 圓 融 碑

この碑は、昭和三十九年日暮芸術院令  
考者豊道春海師の書て、圓融無礙大真と  
あります。

圓にはまろい、あまねく、冬きないといふ意味。融とはと  
ける、やわらぐなどの意味があります。無礙はさまたげ  
のないこと、天真とは天から与えられた純粹の性であり、  
人間の本性であります。したがつて、圓融無礙大真の八字  
字の名にとほへた自己本然の姿ということになります。

記 記









日源上人五重石塔



# 日源上人五重石塔

区指定文化財

(昭和55年4月15日指定)

総高は約4.4メートル。碑文によると、日源上人の追善供養のため寛永13(1636)年に建立され、その後、文化11(1814)年に再興されている。この石塔は、軸石と笠石が別々の石で構成され、しかも軸石が高く、そのため雄大な五重塔となっている珍しい例である。各軸石には、上から「妙」「法」「蓮」「華」「經」と刻まれ、最下層の軸石には由来や造立者などが刻まれている。

# 円融寺板碑(非公開) 区指定文化財

(昭和53年3月22日指定・昭和57年2月4日追加指定)

板碑とは、生前の安樂と死後の往生とを祈願するために建てられた石製卒塔婆で、円融寺にあるものは、すべて緑泥片岩製の題目(南無妙法蓮華經)板碑である。年号のあるものは14世紀から16世紀のもので、最古のものは文保2(1318)年と刻まれている。題目板碑だけを多数所蔵する所は少なく、いずれも円融寺が法華寺として栄えていた頃の資料として貴重なものである。

平成14年12月  
目黒区教育委員会





阿弥陀堂(新本堂)/鉄筋コンクリート造



昭和50年(1975年)の建立で、設計者に佐々木嘉平氏、設計顧問に早稲田大学名誉教授工学博士・田辺泰氏をむかえ、平安朝  
阿弥陀堂様式に則って建設されたという

何と佐々木嘉平氏は昭和8~9年に行われた正福寺地蔵堂の解体修理工事にあたった大工棟梁である



佐々木嘉平氏/ウィキペディアより

<http://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BD%90%E3%80%85%E6%9C%A8%E5%98%89%E5%B9%B3>

上層の屋根は隅扇垂木(大仏様)となっている



繁垂木であるがゆえに扇垂木になると垂木の間隔が異常に広く見えてしまう





正面の中備えは間斗束が二本並んでいる/斗栱はいかにもデザインという感じになってしまっている



連子格子(実際には防犯用の面格子であろうが)も弱々しい/柱も木細い感じを与える

縁を支える持ち送り



下層の屋根は平行垂木になっている



下層の屋根



上層の屋根



他裏庫



## 参考ホームページ

[http://www.city.meguro.tokyo.jp/gvosei/shokai\\_rekishi/konnamachi/michi/rekishi/nanbu/enyu/index.html](http://www.city.meguro.tokyo.jp/gvosei/shokai_rekishi/konnamachi/michi/rekishi/nanbu/enyu/index.html)

<http://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/gakko/bunkazai/shitei/kushitei/enyujinomon/index.html>

<http://www.tendaitokyo.jp/jiinmei/jinss/ss6enu.asp>

